

# 本のある暮らしを

「わたしも、これから、このころのこびんをたいせつにするね。」

そして、じぶんのことも、とまだちのことも、かんがえていくよ。」

第4回町読書感想文・画コンクール小学生低学年の部で

特選に輝いた中谷咲穂さんの感想文です

この一文を読んだだけで、心が温かくなるような気がします

子どもたちのすこやかな成長に欠かせないという「読書」

テレビや携帯電話、パソコンなど

手軽で便利な情報ツールがあふれるこの時代にあって

「読書」が必要な理由とは、その魅力とは、一体なんなのでしょう

本号では、コンクールの特選作品を紹介しながら

本の魅力について考えてみます

## 読書感想文特選作品紹介(抜粋)

### みずいろのこびん 中谷咲穂

みずいろのこびんってなんだろう。きれいなこびんのおはなしかなあ。

よんでみたら、みずいろのこびんは、くちからだせないことばやきもちをしまつておくところで、このころのなかにあるんだって、わかつたよ。

しゅじんこのようちゃんとは、ともだちのしんちゃんに「あたらしいげえむをかして。」といわれて、ほんとうはいやだったのに、うんとうなずいたよ。しんちゃんに、けちなやつとおもわれたり、なかまにいられてもえなくなったりするのが、こわかつたんだね。

いやだつていえないきもちを、みずいろのこびんにいれて、ふたをしちやたよ。

おかあさんが、しごとでかえってくるのがおそくて、ようちゃんは、ひとりでごはんをたべていたよ。わたしだつたら、ひとりであらわれるかな。いつも、かぞくでたのしくたべているから、ひとりじゃさみしいな。ようちゃんは、おかあさんといっしょにごはんをたべたいってきもちを、またみずいろのこびんにしまつちやつたよ。わたしには、みずいろのこびんってあるのかな。きつとあるとおもう。ともだちとけんかをしたときに、つかうこともあつたよ。わるぐちをいいたい

きもちになつたけれど、このころのなかのこびんに、そつとしまつたんだ。でも、ひとのこのころのなかはみえないから、このころのなかのこびんに、そつとしまつたんだ。でも、ひとのこのころのなかはみえないから、みずいろのこびんにぜんぶいれると、さいごになみだになつてでてるよ。

だから、じぶんのいいたいことを、ちゃんというといいよ。でも、ともだちのきづつくことばはいわないといひよ。いわれてきづつくようなことは、しまつておくよ。

じぶんのきもちをつたえて、ともだちのきもちをきくといひよ。わたしも、これから、このころのこびんをたいせつにするね。そして、じぶんのことも、ともだちのことも、かんがえていくよ。

### ホームランを打ったことのない君に 山本悠矢

ぼくは一年生からスポーツ少年団に入つて野球をしています。さい近やつとスーパージュニアの試合に少しずつだけ出ることができるようになりました。だから、ホームランどころかヒットもまだあまり打つたことがありません。今年の夏、ぼくは高校野球を夢中になつて見ていました。それは、静岡県の常葉たちばな高校がベストエイトまでのこつたからです。もしかしたら、ゆう勝できるんじゃないかと思つてわくわくしました。さい後は負



小学生低学年の部 特選  
中谷咲穂 (中川根第一小1年)  
みずいろのこびん



小学生低学年の部 特選  
小田健太 (中川根第一小2年)  
しっぱいにかんぱい



小学生中学年の部 特選  
笹木雅未 (中川根南部小3年)  
ホネホネたんけんたい



小学生中学年の部 特選  
山本悠矢 (中川根第一小3年)  
ホームランを打ったことのない君に



けてしまつたけれど、庄司というせん手は県大会の決勝で二打席連続ホームランを打ちました。とてもかつこよかつたのおぼえています。どうしたらあんなにすごいホームランを打てるようになるんだろうと思ひ、読んでみたくなりました。

主人公のルイは、試合で二アウト一・三塁のぎやく転のチャンスにバットを打つて、ホームランを打ちました。でも力が入りすぎて、ボテボテのセカンドゴロ。けつきよく負けてしまいました。もしもぼくだつたら、おちこんじゃうよな。大きなチャンスの時に自分の打席が回つてくると、うれしい気持ちと不安な気持ちのりよう方が出てきます。だからとてもぎんちようします。ぼくも試合の時、二・三塁のチャンスだつたのにボテボテのピッチャーゴロで、とてもくやししい思ひをしたことがありません。ルイはその日コンビニで仙ちゃんに会いました。仙ちゃんは交通じこで歩けるようになるかわからないほどひどいけがをしていたそうです。でも、仙ちゃんは一生けんめいリハビリをして歩けるようになりました。それだけでもすごいのに、仙ちゃんはいつかホームランを打ちたいという夢をあきらめないのがすごいと思ひました。ぼくならあきらめずにがんばれるかどうかかわからないし、野球ができなくなるなんてこわくて考えたくありません。

ぼくは、家でお父さんといっしょに